

令和4年度 学校関係者評価委員会 報告

1. 実施日時

令和5年6月28日(水)9時～11時

2. 学校関係者評価委員

- ・看護学校管理者
- ・卒業生代表(同窓会会長)
- ・保護者代表

3. 学校評価の対象

- ・令和4年度教員による自己点検・自己評価
- ・令和4年度卒業生の教育目標達成度

4. 学校関係者評価委員会による主な意見および課題

* カテゴリー I (教育理念・教育目的、II(教育目標)、III(教育課程経営)、IV(教授・学習・評価過程)において、本校のディプロマポリシーを目指して新カリキュラムに対応した教育活動が行われていると評価する。IV(教授・学習・評価過程)では、教育方法として電子テキストを採用しICTを活用した授業に取り組んでいることは、学生の強みを生かすことになる。また、紙媒体のテキストは持ち歩くのかさばるが、電子テキストは特に実習中の場合、タブレット1つあれば良いので利便性が高く効果的である。

* II(教育目標)において、教育目標の達成度について卒業生に自己評価を行っているが、評価の高いことが気になる。評価の低い学生はそれだけ考えて評価をしており、評価の高い学生はあまり考えずに評価を付けているのではないか。評価の低い学生の意見を聴くことは重要であり、今後の教育活動の改善点になる。学生の反応をしっかり捉え学校運営に反映させてほしい。

* VII(卒業・就業・進学)について、3年課程においては進路指導が必要であり1年次より計画的に実施できている。ただ、将来のことをしっかり考えている学生とそうでない学生とがおり、後者の傾向にある学生の方が多い。今後臨地実習の中でロールモデルとなる看護師に出会うことによりなりたい看護師像がイメージでき、看護師としてのキャリアについてビジョンが描けるようになることを期待する。時期や機会を考え意識付けを行っていく必要がある。

* VIII(地域社会/国際交流)について、学生自治会活動やボランティア活動をとおして地域住民の方と交流をしており、その中で気づいたことをこれからの学習に役立てて欲しい。

* IX(研究)は、看護学雑誌「看護教育」に実習の取り組みについて掲載しており評価する。教員は授業、教科外活動、学校運営に関する業務と実務に追われるが、研究活動のできる体制(時間、財政)を整えるなど、教員のモチベーションの維持向上やキャリア発達への支援が必要である。